

平成25年度東京都高等学校対校陸上競技選手権大会のみどころ

昨年のインターハイで、東京都の女子は男子同様2種目に優勝し8種目に入賞した。また、関東新人での活躍も目覚ましく今年は非常に期待できる人材がそろった。

そして、今年の大会では東京高校と白梅学園との総合優勝争いが白熱しそうだ。昨年の新人大会では総力戦で白梅学園が久しぶりに東京を破った。両校ともレベルの高い選手が揃い競り合うことで好記録誕生の可能性も高くなるだろう。こちらも期待したい。

女子

・短距離

100mでは、支部予選の記録では風など条件的に比較はしがたいが、やはり実力的にはインターハイ5位で11秒90の記録を持つ高森 真帆（東京3）が優勝候補だろう。しかし、同じ第一支部予選で高森を破った荒井 アンバー（日工大駒場2）が向風の中12秒17と好調だ。高森に対抗できるのも荒井だけだろう。今季は故障上がりで100mに不安がある利藤 野乃花（白梅学園3）も回復次第では勝機がある。鈴木 夢桜（東京3）林 小百合（八王子3）山子 真里奈（錦城3）も11秒台を目指しており今年の女子スプリントは強力なメンバーなだけに記録的にも期待ができる。東京都の選手が多く全国の決勝に進出することを願いたい。

200mも100m同様に高森が有力で、全国優勝も十分考えられる。利藤の欠場はさびしいが、荒井・千葉 有紗（城西3）やエドバー・イヨバ（東京1）・奥田 真澄（東京2）にも上位が期待できる。

400mは、昨年55秒18をマークし東京都高校新記録を狙う利藤 野乃花（白梅学園3）が優位であるが、今年はまだ57秒台にとどまっている。今季はまだスピード感覚が取り戻せていないようだが本番になればその実力を発揮するだろう。支部予選で57秒台をマークした奥田姉妹と北村 夢の東京高校トリオや香坂 さゆり（白梅学園3）が上位をうかがうことだろう。

中長距離

800m・1500mともよっぽどのことがない限りト部 蘭（白梅学園3）の優勝は間違いないだろう。それほどの実力であることは昨年までの活躍ですでに証明されている。3000m・5000mで昨年東京都高校新記録をマークした谷萩 史歩（八王子3）が1500mで競り合うだろうがスピードではト部が上手である。ただ、3000mでは谷萩がどれほど大会記録を上回るかが期待される。いずれにせよ、昨年あたりから東京都女子の中長距離のレベルが上がっているだけに、どの種目においても好レースが展開されると予想され楽しみである。800mでは、北村 夢（東京3）鈴木 菜沙（白梅学園2）奥田 静香（東京2）が上位を狙っている。1500m・3000mでは順天高校の佐藤 みな実や八王子の今泉 野乃香の新人が上位争いに加わりそうだ。また、佐藤 由依（都南多摩3）元廣 由美（八王子2）唐澤 ゆり（都上水3）も上位に顔を出すことだろう。

・ハードル

100mHでは、昨年1年生ながら14秒15をマークした澤田 珠里（白梅学園2）が13秒台を目指す。しかし、今季はまだこの種目に出場していないだけに心配でもある。また、昨年全国中学記録をマークしている澤田 イレーネ（都文京1）が支部予選で初めて一般用ハードルにトライし、向い風の中14秒87で走っていて1年生優勝も十分可能である。第一支部では小原 奈波（都駒場3）・田島梨紗乃（東京1）・速水 舞（都駒場2）が順調で上位争いをしたいところだ。

400mHでは、伊藤 明子（田園調布3）が昨年59秒36の東京都高校記録をマークしているだけに優勝は揺るぎないものとなるだろう。今年もすでに59秒台で走っているだけに更なる記録更新も期待される。高島 紗矢子（都狛江3）柳下 美佐子（戸板女2）香坂 さゆり（白梅学園3）も60秒を切る可能性もありハードリング・走力とも能力が高く期待できそうだ。

・競歩

今大会21名の出場と大幅に出場者が増えた。この競技に取り組む選手が増えたことに喜びを感じる。さて、今年は吉田 百見（都文京3）が25分台前半を目指すレースとなろう。歩型・スタミナ・スピードともに優位である事から優勝候補である。若杉 遥夏（東京3）・宮本 七海（錦城3）が26分台で吉田に続くと思われる。27分台が関東出場の4位争いとなるだろう

・跳躍

走高跳では、支部予選で1m70を跳んでいる伊藤 明子（田園調布学園3）が優勝候補だ。ただ、高校入学以来1m70前後に留まっているだけに一気に記録を伸ばしたいところだ。七種競技においても得意種目なだけに飛躍を期待したい。渡辺 しずか（日出3）、高橋 このか（白梅学園1）、佐藤 佑香（東京1）、そして、昨年1m68をマークしている小林 玲奈（都足立新田1）がどれだけ1m70に近づくかが見どころだ。

走幅跳では、岐阜国体に出場した水口 怜（白梅学園2）、支部予選で5m61をマークした鈴木 利佳（駒大3）、昨年関東で優勝した林 小百合（八王子3）の優勝争いとなるだろう。しかし、小林 結（白梅学園1）・高田 真由香（都駒場3）・本多 真理子（江戸川女3）にも実力があるので優勝のチャンスもある。

オープン種目の三段跳は34名のエントリーで行われる。11mを大幅に超える記録を保持している選手はいないが11m近くに跳躍しないと上位入賞はないだろう。そのチャンスがあるのは竹内 梨子（都つばさ総合3）川村 香月（東京2）多岐川 歩美（都北園3）小林 優里・吉若 藍（ともに江戸川女2）らが優勝候補と言えるだろう。優勝記録が12mに近付くことを期待する。

・投擲

砲丸投では、長沼 瞳（郁文館3）と晴山 江梨花（東京3）が自己記録を13mにのせて来た。南関東でもこの二人の対決となるだろう。さらにスーパールーキーである坂本 早映（戸板女）が1年生ながら早くも12m61にまで記録を伸ばし今大会を迎えている。森田 栞・新崎 美深（ともに東京3）、藤森 夏美（都つばさ総合3）も12mに近い記録を持ち久しぶりにレベルが高い。11m台でも関東出場は難しいかも。

円盤投では、昨年の関東新人で42m34をマークし、今季もコンスタントに40mを越えている藤森の優勝は間違いないだろう。久しぶりの東京都高校新記録も十分に可能だ。昨年インターハイに出場した吉田 佳菜（専大附3）が優位だが昨夏以降記録を伸ばせていない。逆に森田 栞、清水 ひとみ（日体桜華3）が成長し35mを越えてきて全国出場が見えてきただけに更なる記録更新に意欲的だ。

やり投は、昨年の関東新人で45mを投げた混成の澤田 珠里（白梅学園2）が優勝候補だが、石井 崇愛（都つばさ総合3）が東京選手権で45mを投げ「一気に」混戦模様だ、山下 美聡（都青梅総合3）、後藤 紗希（東京2）、熊木 綾香（都昭和3）にも優勝のチャンスがあるだろう。40mでも入賞は厳しくなるかも。

・七種競技は昨年のインターハイチャンピオンの伊藤明子がどこまで記録を伸ばすかが注目だが、この大会では同じくインターハイ2位の澤田 珠里がおり、伊藤自身も「気が抜けない」だろう。全国までこの二人のライバル関係には期待したい。二人で競り合い全国高校記録にも挑戦してほしいものだ。

・リレー

女子の両リレーは、東京高校と白梅学園の激突となるだろう。両校とも昨年のインターハイで優勝争いをしてきただけ有力だ。昨年は「400mRの東京、マイルの白梅」の図式が成立していたが、今年はマイルで東京が互角に戦えるまで戦力が充実してきた。両リレーとも両校が全国優勝を目標としているだけに好記録が誕生する可能性もある。両リレーで両校を追うのは八王子、4×100mリレーでは、都つばさ総合・日工大駒場あたり、4×400mリレーでは、明中八王子・城西・駒大が関東出場を競い合うのではないだろうか？

・総合

昨年の新人大会では総力戦の末、白梅学園が東京高校の連覇を阻み久しぶりの栄冠を勝ち得た。新戦力を加えた今年の争いも昨年以上に興味深い。ただ、白梅学園は故障からか出場種目が減っており、東京は全国総合優勝校として巻き返してくる事から新人大会のようにはないだろう。いずれにせよ最後の種目まで目が離せない。